

中小企業における両立支援

2019年6月28日

松下産業 企業データ

創 業	昭和34年11月1日
設 立	昭和39年12月3日
資本金	3億1240万円
売上高	グループ199億円（2018.6）
従業員数	234名（2019.6.1）
所在地	本 社 東京都文京区本郷1-34-4 大阪営業所 大阪府大阪市内本町1-1-5 プラスサンビル501
関連会社	株式会社アーバンアセット研究所 株式会社松下環境産業 株式会社武田工務店



本社ビル

企業理念

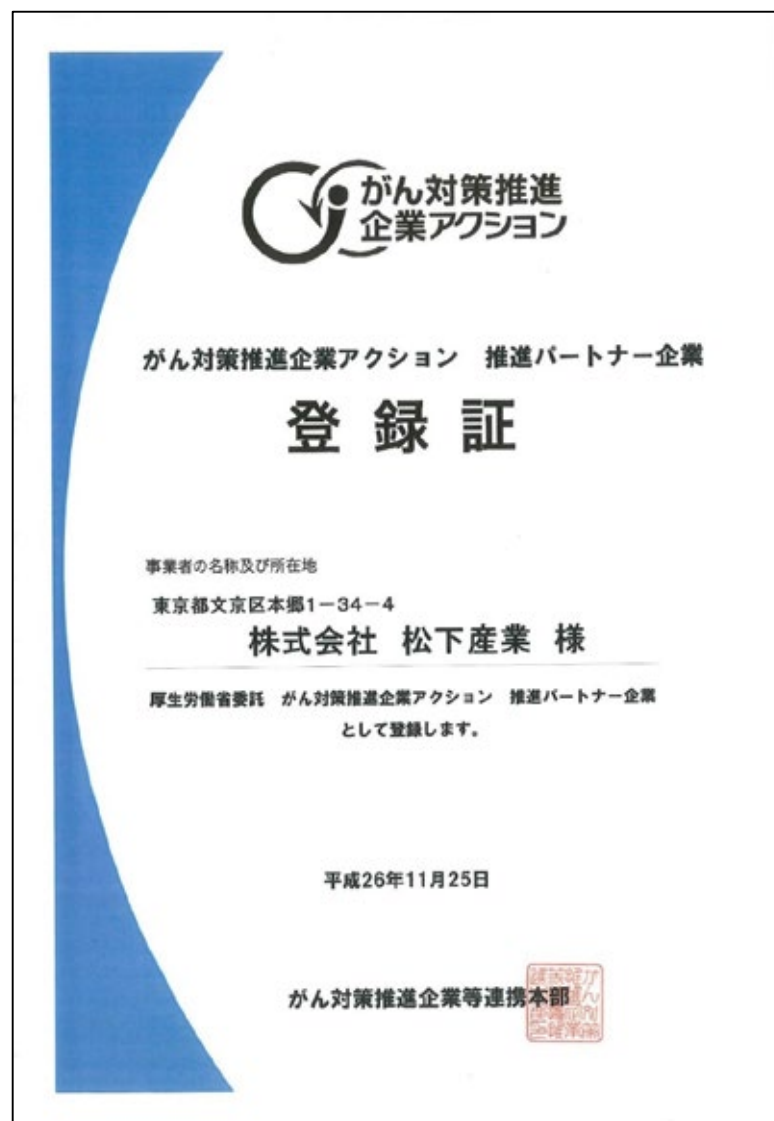
多様な価値観との共存を図りつつ
平和で豊かな環境のもとに
希望と喜びと誇りに満ちた生活の出来る
社会づくりに奉仕する

当社のモットー





平成26年度「東京都がん患者の治療と仕事の両立への優良な取組を行う企業表彰」優良賞



がん対策推進企業アクション
推進パートナー企業登録



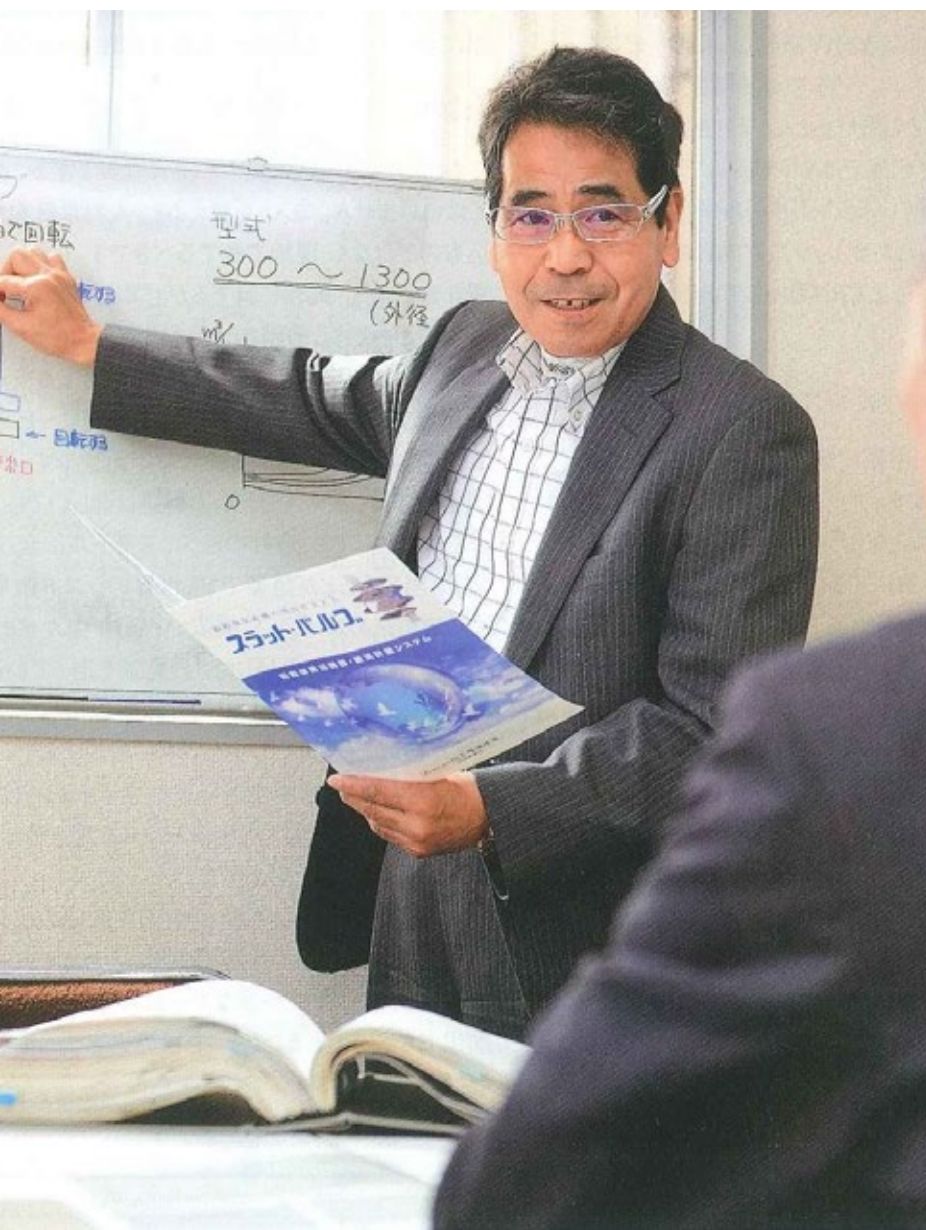
LOTUS HOUSE

設計：隈研吾建築都市設計事務所

当社のがん患者の就労継続に 関する実績

過去10年間のうち
健康診断でがんが見つかり、就労継続した従業員
13人

現在もがんと診断されても
就業継続している従業員
8人



1. 開業中の就業体制はフレキシブル。内勤への異動はもちろん、在宅勤務もできる。2. HRCセンター長の菅原順子さん。3. 社員が脳梗塞を発症したことからAEDを設置。4. がん治療を行っているが勤務する建築部統括部長の吉留誠さん。

がんと闘病した社員は 過去10年で10人

「健康診断で社員に重い、がん。が見つかった！」

そんなとき、あなたの会社ならどのように対応するだろうか。

治療に専念してもらい、本人が担当していた業務については後任を探す、というのは一つの方法だろう。あるいは、病状を考慮しつつ、可能な範囲で働いてもらう、というのも選択になるかもしれない。

しかし、その状況を具体的に考えてみると、事態はそれほど簡単ではないことがすぐにわかってくる。例えば、治療に専念してもらった場合には、「職場復帰」を前提とするのか否かという問題がある。

一方で、可能な範囲で働いてもらうとすると、その「可能な範囲」を誰がどう判断するのか、という問題が浮かび上がってくる。

こうしたケースで非常に参考になるのが、松下産業の取り組みである。

同社は一九五九年創立の総合建設業で、従業員数は約二三〇人。過去一〇年で、がんの治療をしながら一年以上の就労を継続した社員が約一〇人いる。現在も六人が勤務を継続中

だ。つまり同社では、「がんになっても可能な範囲で働き続けてもらう」ということが大前提になっているのである。

この方針について、同社の代表取締役社長である松下和正氏は「本人にとってももちろん、会社にとってもそれが最良の選択」だと語る。

「がんという病気は、遅かれ早かれ『明日はわが身』というところがあります。ですから、『がんになったら疎外される』という環境では、社員は安心して働けないと思うんです。それに、私たちの総合建設業という業種でいえば、働く場所は何も現場だけではありません。営業、設計、見積もりというように、いろいろな仕事がありますから、働き方は多様に選択できます。そして何より、今は本当に医療が進化しています。働きながらがんを治療することが、普通にできる時代なんです。」

ワンストップの相談機能を設置 本人・家族に寄り添う

実際には、同社ではがんに罹患した社員をどのように支援しているのだろうか。

ここで核になるのが、三年前に取締役会直下の組織として設置された

グループ会社の松
総役の和田道雄
罹患後も営業の第

みずほ総合研究所
Foleフォーレ 2016.11月号より

当社の取組み



①まず本人と話す

病院・自宅に駆けつけ本人・家族の要望・希望をヒアリング

②主治医・産業医・ 専門家との連携



③治療を支える 家族もサポート



④社内制度、公的支援の周知

病気の理解促進

⑤日ごろの情報収集とニーズの把握



⑥会社とのつながり やりがいを感じてもら う

①まず直接、本人・家族と話す

「病気になった」
「入院することになった」
社員から連絡があったらまず
直接本人と会って話す
病院・自宅へ駆けつける



今後の見込み、業務の引継ぎを行う

本人、ご家族の要望・希望をヒアリング

②主治医・産業医・専門家との連携

産業医の活用

現場の巡視

イメージと実際の差を感じてもらう

デスクワークとの比重、安全管理体制

工事現場の足場など危険箇所の把握など



産業保健師の活用

健康指導、禁煙指導など、産業医のフォロー

主治医面談に同席

現在の状況、今後の見込みなど専門家として家族をフォロー

各種専門家との連携

がん相談支援センター、ハローワーク、地域産業保健センター、社労士、ファイナンシャルプランナーなど

③治療を支える家族もサポート



ファミリーデーの開催、家族との交流

④社内制度・公的支援の周知 病気の理解促進

患者と家族宛に療養時相談窓口等案内文書配布

在宅勤務制度や柔軟な勤務体制

GLTD（団体長期障害所得補償保険）

がん検診実施（35歳以上人間ドック＋オプション検査）

社会保険制度

がんや病気に関わるライブラリーの設置

社内イントラネットや社内報に闘病記を掲載

禁煙外来費用の助成



療養時相談窓口・留意点等の案内文書

「療養期間に入る〇〇さんへ

安心して療養に専念できるよう、療養中の手続きや職場復帰時の流れを説明する資料です」

- ・ 連絡窓口：給与、保険、職場復帰、面談、病気のこと
- ・ 社外の相談窓口：連携病院や無料相談機関
- ・ 療養にあたっての留意点や職場復帰の流れ など

⑤日ごろの情報収集とニーズ把握

ヒューマンリソースセンター（HRC）設置

→「ひと」に関することをワンストップで行う部署

賞与面談（個人面談）を年2回実施

→ニーズを制度に生かす、盛り込む

個人カルテ、健診2次検査のフォロー体制

配偶者の健康管理の必要性



⑥会社とのつながり、やりがいを感じてもらおう

まほろばWeb版

株式会社 松下産業

サイト内検索

TOPページ > > Topics3:安全環境部

さん 敬 みなさまへひとこと

Topics3:安全環境部

さん 敬 みなさまへひとこと

安全環境部

普通の生活のありがたさ

あの時はもう社会生活ができるなんて思えなかった。

6月、時々頭が痛かったものの、たいしたことはないだろうと幕僚を行っていたが、6月末に地元の病院で診察を受けたところ脳腫瘍との診断。しかし週末、家で寝ていても、一向に良くならず、食事もうまくできない状態になったため、全国安全酒問が始まった7月1日、無量敬成の大事な日を休み、後ろ側をひかれながら地元の総合病院を転院した。そこでCT撮影やMRIの検査の結果、「脳腫瘍」と診断され緊急入院となった。私にとって、人生で最も苦痛な一日だった。

主治医から、腫瘍のなかつた病名をいきなり告げられ、手術の説明をうけた家族はショックで信じられない様子だった。その後は手術に向けての検査の毎日が続く。私は糖尿病や肝臓疾患・高血圧等がない上、体力があり、おまけに動脈硬化は一歩・手術に臨むのに充分だということだった。持病のために手術ができなくて亡くなる方も居られるとのことだ。實際、たばこは吸わず酒もほどほど、できるだけ規則正しい食事を心がけ、週末は学生・中学野球の審判をするため身体を動かしていたのが良かったのだと思った。

10時間近く及び手術とその直後はさすがに苦しかったものの、日に日に良くなり3日もすれば食事もうつされ、その後の快復は早かったように思う。しかし術後に得ていた放射線と抗がん剤の治療、副作用の不安があった。人によって違うと聞いていたが、幸い身体が強かったのか、薬が合ったのか、白血球の大相減少もなく脱毛と腫のむくみ程度で、乗り切ることが出来た。入院中は、長いひとりの時間を、家族をはじめ様々な方が見舞って下さり、励まして下さったおかげで、前向きに過ごせた。そして予定通りに退院の日を迎えることが出来た。まさに「病は気から」だ。

今後も抗がん剤等の治療は続くけれど、身体を気遣いながら良い仕事をしたいと思う。私は今、あたりの普通の生活ができることに感謝し過ごしている。

【安全環境部 さん 記】

2013-10-25

まほろばWeb版

株式会社 松下産業

サイト内検索

TOPページ > > Topics2:4月末退職の

さんよりお手紙

Topics2:4月末退職の

さんよりお手紙

4月末退職の

さんよりお手紙

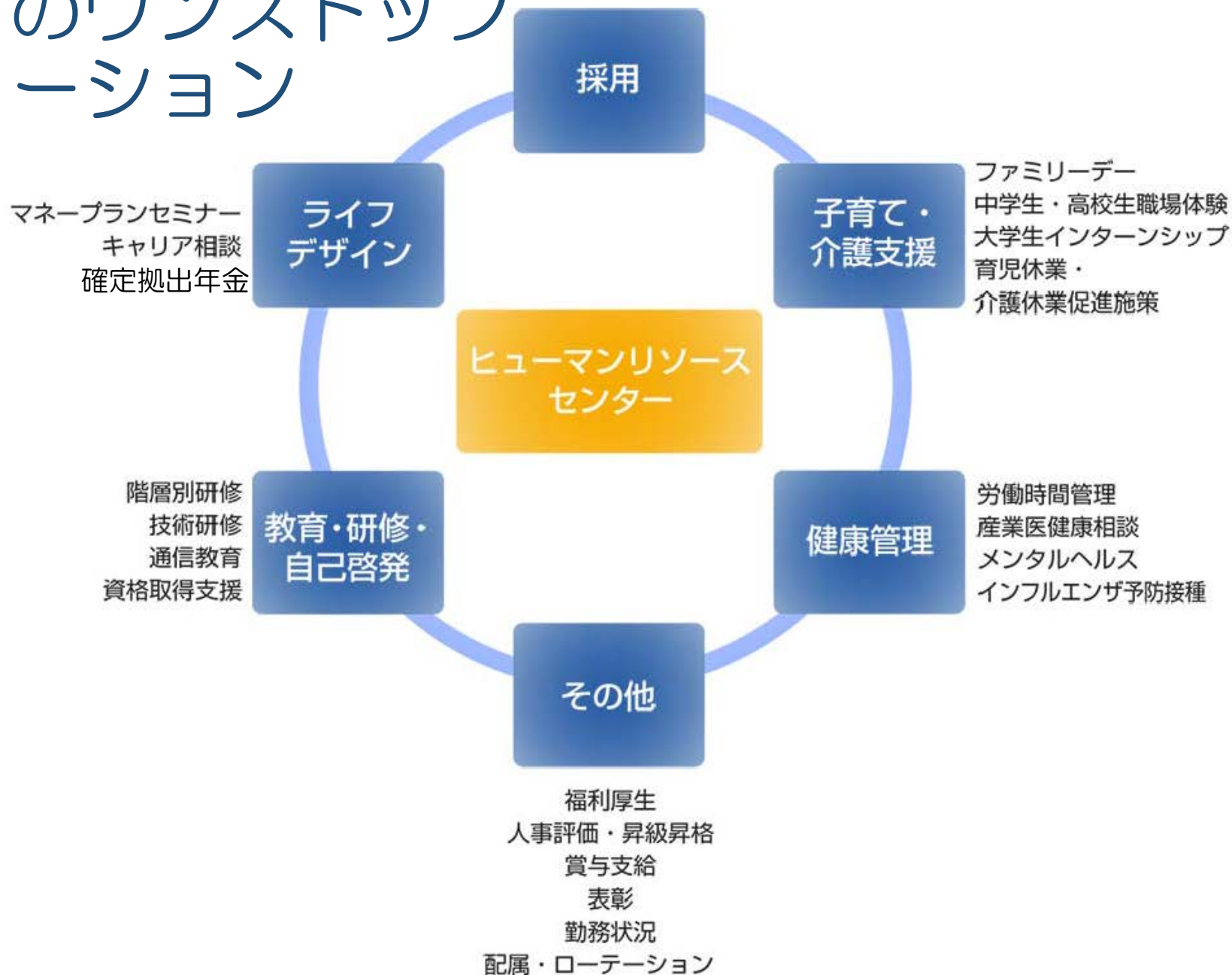


『一昨年十月に病に倒れて、リハビリを続けてまいりましたが、休職期間満了に伴い、この度退職する運びとなりました。在職中は皆様のご厚情を賜り、誠に有り難うございました。長期入院中も、皆様に励ましていただきまして、家族一同日々感謝の気持ちで一杯です。皆様に大変お世話になりながら、何のお礼もできず、心苦しい限りです。これから皆様のご厚情を心の糧にして、リハビリ病院で療養を続けてまいります。会社は離れますが、かけながら皆様のご健康とご活躍、そして安全お祈りしております。平成二十六年四月 』

さんより、光触媒加工のシンビジウムの造花をいただきました。本社第三会議室に飾っています。まるで本物のようです。さらに、さんが大好きな銘菓「博多通りもん」をいただき、5月の現場責任者の会議出席者へ配布させていただきました。また安全環境部へは現場の熱中症対策のためにポカリスエットをいただきました。

2014-05-23

HRCのワンストップソリューション



HRCが大切にしていること

- ・ 確定診断前の一番不安な時期と病院選びから支援が始まる



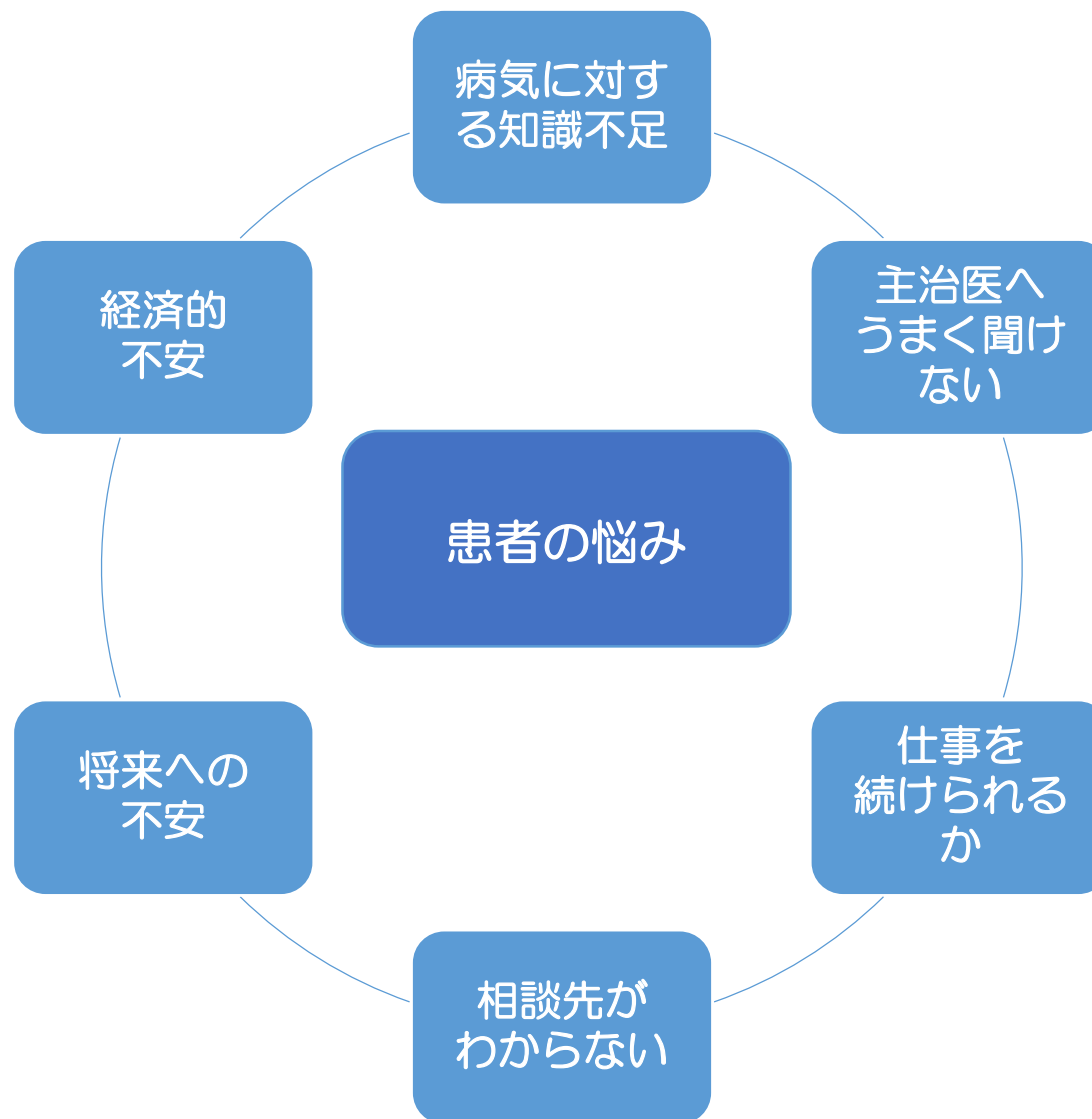
- ・ 正しい情報、豊富な経験の蓄積
玉石混交の情報を選別できる知識を持つ

- ・ 社員や家族が何を必要としているかを対面で聴く
できなければ電話で会話する（書面を送りつけておしまいにならない）

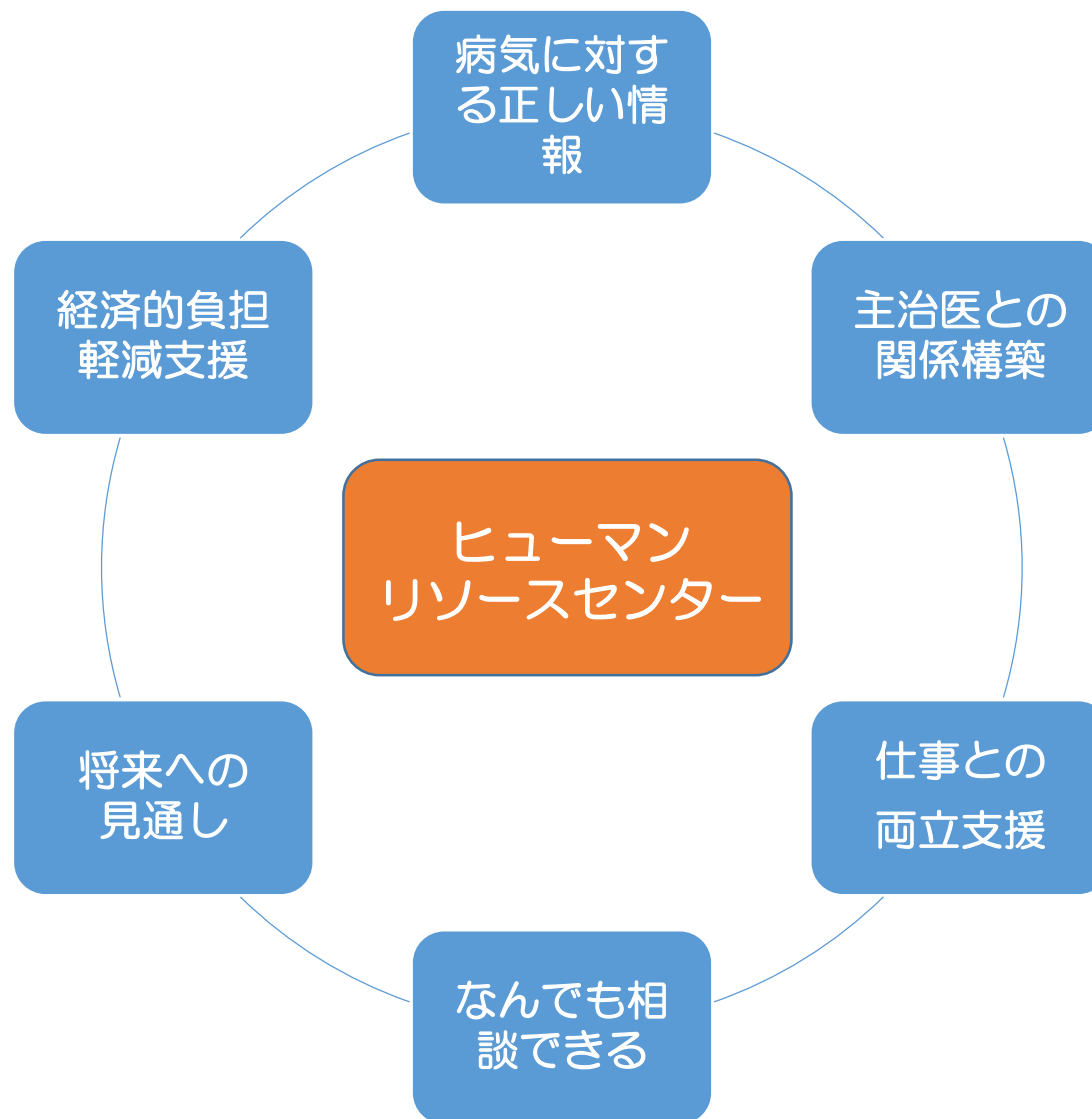
- ・ 相談窓口として機能するために
適切な専門家を探し出し、連携をする

- ・ 狭くなりがちな視野に、多角的視点を付与する

患者の悩み



HRCが目指す機能



中小企業でもできること

中小企業でもできること

- 中小企業でもできることはある



家族ぐるみの付き合いから生まれる連携・支援

- 社内リソースが足りないと感じるなら・・・

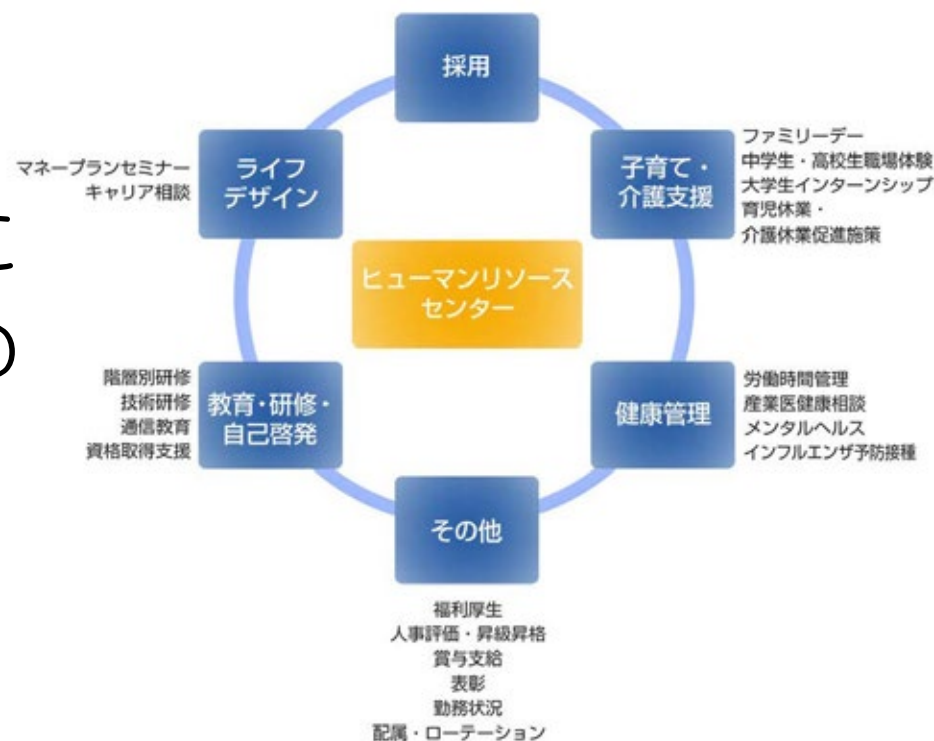


社外の専門家に頼ることも必要

ワンストップだからこそ

- ・組織構成上、あえてラインからはずして実質的な権限を付与

- ・社外専門家から得たノウハウやデータが一元的に蓄積され、さらに両立支援の質と対応力が高まっていく



なぜ当社は治療・就労の両立を
支援するのか

それは…「四方よし」を体現するため

- 「四方よし」の基本は顧客満足、それをつくり出す「源泉は社員」
- 社員の満足と安心なしには、会社経営は成り立たない
- 社員の最大関心のひとつは健康、中でも「がんへの不安」
- これを解決することが、四方よし（顧客/社員/地域・環境/協力会社）に一番結びつくものだから

ご清聴ありがとうございました

